

テレコム社会科学学生賞受賞報告

第8期生 佐藤 遼太郎・相原 由佳・樋口 優美
荻野 真央・鈴木 もも・我田 哲之

◆テレコム社会科学学生賞とは...？

電気通信に関する研究調査の助成等を事業内容として1984年に設立された財団法人、電気通信普及財団が募集している4つの「電気通信普及財団賞」のうち、電気通信についての社会科学的観点からの優れた学生論文（電気通信と法律・経済・社会・文化等との関係について論じたもの）を表彰するのが、「テレコム社会科学学生賞」です。小野ゼミ第8期論文プロジェクトの一つである「マーケティングゼミ合同研究報告会」で昨年度に共同論文を発表した8期生6名は、今年度、この「テレコム社会科学学生賞」に挑戦し、佳作作品に選出される栄誉に浴しました。

◆執筆論文の概要

「eクチコミのプラットフォームが製品購買意図に及ぼす影響——消費者関与に着目して——」

近年、インターネットの普及により、Web上でのクチコミがその重要性を増してきている。既存研究においては、情報源の信頼性が、消費者が知覚する情報の有用性に大きく影響されていると主張されてきたが、その情報源におけるクチコミが投稿されるプラットフォーム（ブログやSNSなど）は着目されてこなかった。そこで、我々は、プラットフォームが消費者のeクチコミにおける情報の採用に与える影響を考慮に入れたモデルを分析する。

◆執筆後記（第8期生 佐藤 遼太郎）



今年度、「テレコム社会科学学生賞」に挑戦する機会を小野先生から頂き、見事、佳作作品として表彰されることになり大変嬉しいです。昨年度の「マーケティングゼミ合同研究報告会」を終えた時と同様に、始めは実感が湧きませんでしたが、小野先生からお祝いのお言葉を頂き、自分達が執筆した論文が評価されたんだなとしみじみ感じました。このような評価を頂けたのも、論文執筆メンバーを始めとした小野ゼミ生、そして温かくご指導をしてくださった小野先生のおかげです。本当にありがとうございました。

◆執筆後記（第8期生 相原 由佳）



入賞。こんな栄誉をマケ論が手にするなんて、夢にも思わなかった。商学部内の他のマーケティングゼミに負けたくない研究がしたい、そう思って私はマケ論を選び、同じ志を持つ6人で突っ走ってきた。そして私たちのマケ論は、2010年12月18日のマケ報告会にて達成感と感動を胸に残し幕を閉じた…はずだった。が、卒業を間近に控えた2月に、今度は学外で自分たちの論文が評価されるとは、本当に感無量である。論文執筆の御指導だけでなく、論文投稿を薦めて下さった小野先生、そしてマケ論メンバーを支えてくれた全ての人に感謝したい。本当にありがとうございました。

◆執筆後記（第8期生 樋口 優美）



三田祭論文を学外の受賞論文という形に残すことができたことは、非常に大きな達成感につながりました。私にとってマケ論での経験は、精神的にも体力的にも私に自信をつけさせてくれました。小野先生、ご指導本当にありがとうございました。そして、頼りない自分をいつも支えてくれたマケ論の皆、先輩方、そして8期生の皆。皆さんのおかげで、厳しくも楽しい小野ゼミ生活を送ることができました。本当に、2年間ありがとうございました。

◆執筆後記（第8期生 荻野 真央）



まさか本当に受賞できるなんて思ってもいませんでした！この論文を書き上げたとき、僕達はマーケティングを学んでまだ半年そこらのド素人でした。そう考えると、この小野ゼミに入って、このメンバー達と一緒にあって、笑いながら泣きながらこの論文を書き上げたことは、まさに奇跡の連続で、この受賞は、その奇跡の結晶です。小野ゼミ、そして、メンバーの皆、本当にありがとう！そして、これからもよろしく！

◆執筆後記（第8期生 鈴木 もも）



今回、自分たちの論文が受賞されて本当に嬉しいです。これまで小野先生や大学院生、先輩、同期からのフィードバックを受ける度、「本当に価値のある研究にできているのか」自分達の研究を疑ってきました。しかし、昨年の発表に続き、自分たちの論文が評価され、今までやってきたことは無駄ではなかったと強く実感しました。これまで共に執筆してきたメンバー、貴重な意見を常にくださった大学院生の方々、そして論文執筆のご指導だけでなく、今回論文投稿の機会を与えてくださった小野先生、本当にありがとうございました。

◆執筆後記（第8期生 我田 哲之）



今回このような成果をあげることができたことに対して、小野ゼミに入った理由が学業で何か成果を残したいということだったこともあり、非常に大きな喜びを感じています。マケ論のメンバーの中では、データをいじることよりも仮説を組み立てていく側の役割の人間だったので、その仮説が評価されているのであれば、また非常に嬉しいです。これもひとえに小野先生をはじめとし、大学院生の方々、7期の先輩、そして同期のみんなのおかげだと思います。ありがとうございました。



とあるゼミ後の執筆メンバー達